



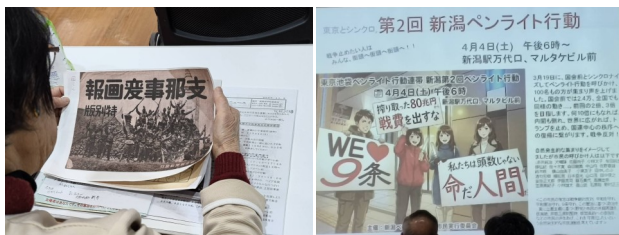
遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443



憲法を守る長岡地域共同センター

第21回平和・民主交流会を開く



3.28 平和・民主交流会で回覧された講演資料



遠藤れい子は県民ネットワーク作成の「原発リーフ」を手に、「対話して、ひとり一人が自分事として考えよう」とあいさつ

平和・民主交流会が開催され、赤井純治新潟大学名誉教授は講演で、「総選挙後の新しい情勢、平和の危機に何をなすべきか」。政府は戦争を可能にする方向へまっしぐら。こうした中、市民は論理より情に流れる傾向にある。これは戦争への道に進む危険がある。対抗軸は市民が賢くなることだ。

「戦争反対の15の視点」を提起し、危機感と怒りをもって対話・対話・対話し、街頭へ街頭へと出て訴えよう。先日、国会前では2万人集まり、「改憲反対!」「9条守れ!」と声をあげだした。新潟大学前でチラシを配ると受け取る学生が増えてきた。徴兵制、平和憲法、戦争のリアリティなど、学生の受け止めも変わってきたと思う。新潟県内で長岡で「戦争反対」の行動を起そう。と情熱溢れるお話。その後、各参加団体から様々な報告がされ、遠藤れい子は日本共産党を代表してあいさつしました。

ホントに大事なことは書いてない=新潟県作成の「原発リーフ」を批判する…その①

県作成「原発リーフ」の記述

福島第一原発事故はなぜ起きたの？ (安全対策編)

東日本大震災で福島第一原発は運転中の原子炉は全て自動停止し「止める」ことができました。しかし、地震と津波で電源や冷却設備を失い、「冷やす」こと、「閉じ込める」ことができなくなりました。その結果、水素爆発や放射性物質の大量放出などが起こったのです。

被災した他の原発はどうだったの？

福島第二原発、女川原発、東海第二原発では、地震や津波の被害はあったが、「止める」ことと、「冷やす」ことはできました。そのため放射性物質を「閉じ込める」ことができ、事故には至りませんでした。

遠藤れい子の
笑顔でファイト

書いてないけど、東電の安全対策の実際は

- 東電は1971年の福島第一原発1号機営業運転開始直後から大小さまざまな事故を次々起こし、大事故寸前の事故まで隠し、その度に、通報遅れを指摘され、その上データの改ざん・捏造等々が常態化し悪質化していた。
- 1987年、原発問題住民運動全国連絡センターが結成された。阪神・淡路大震災後、「原発震災」が警告され、福島原住連は地震・津波発生時の原発の防災対策を訴えた。
- 2005年2月、東電は追究され「福島原発はチリ津波級の津波に耐えられない」ことを認めたが、再三の抜本的対策要求(防潮堤を高くするなど)はことごとく無視した。その結果、メルトダウン「レベル7」の大事故を起こした。東電の度重なる安全対策の軽視により、起こるべくして起きた原発事故である。

お知らせ

ON STAGE 遠藤れい子と仲間たち
4月18日(土) 開会・2時(開場:午後1時30分)
(会場) 長岡市立劇場小ホール(会費)1,000円